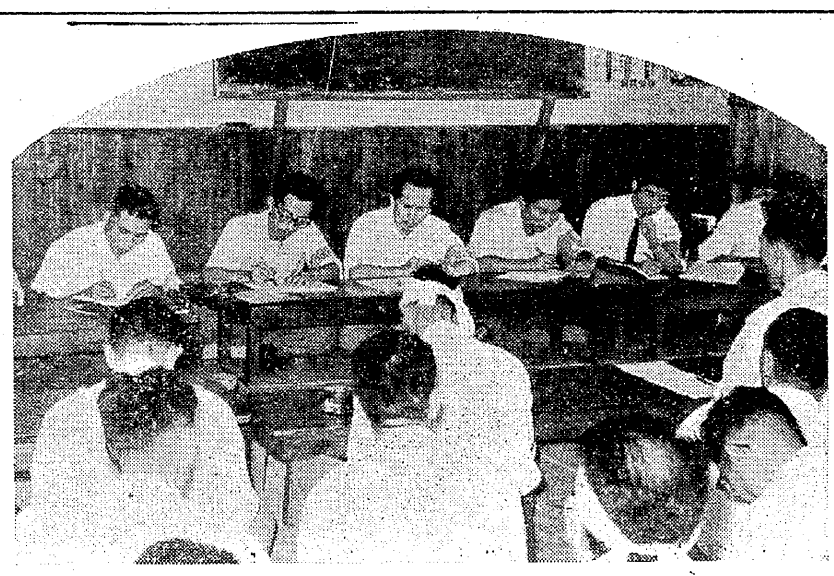
共闘態勢にそなえ

九州機関紙協会が三池で共同デスク



日本機関紙協会九州支部では、去る二十二日九州各地区の単産から編集担当者が三池に集つて共同デスクをひらいた。炭労の企業整備闘争が、こんどの日本の労働組合の運命を決するほどの重大な意義をもち、とくに三井にかけられた攻撃は未だかつてない資本の大規模な攻勢であり、共同デスクで闘う三池の様相を取材し、各単産の機関紙に掲載して、闘争の理解と共闘態勢を固めるためにひらかれたわけである。

共同デスクでは早速、この日午後三時半から三川支部二階で、二十四昇の分会員と懇談を行つた。

一人一人が職制に発言できる

共同デスク側の出席単組は九州機関紙協会事務局長をはじめ、八幡製鉄など十一単産であつた。

問　皆さん達の闘いを理解したいしお互いの交流を図りたいと思います。まず不況ということをどう受けとつていますか。

A　ただ単に不況ということではなく、戦前、戦中を通じて会社は労働者を意のままに働かせて石炭を掘つていた。いま会社はあの当時にもどそうとしている。

【写真】共同デスクで懇談、向う側がデスク

と考えている。不況ということより、何とかして労働者が職制のいうこと聞いて、誠意をもつて働くようにする手段だと思う。そのため、職場活動者を一番さきに切ろうというのが目的だ。われわれはその場合、最後まで闘つて共倒れになつてもよいと決意している。闘争をやつて混乱させようというのが目的ではなく、部内が融和になるのが念願である。

不況には惑わぬ

C　新聞、雑誌で石炭界の不況を盛んに流しているが、われわれ組合員は、一方的な政府につながる資本家の逆宣伝だとみている。

いまの段階では組合から流れてくる情報が一番真実だと信頼している。そして指令、指示を消化している。

E　私たちは、まず機関紙の正しさを信ずる。これには組合なり組合幹部の信頼がなければならない。

F　不況だから首切るというのは通らない。機械化は進めているし、会社は政策的に首切りを出してきているし、不況を宣伝している。

M　不況というが、現場では石炭を一塊でも多く出せといわれるし、組合員は不況を信じていない。

K　理屈抜きに、現場では不況宣伝に負かされている人はいません。

むがしを夢みる会社

問　二十四昇の職場活動家に、敵の攻撃が集中してきた理由は何ですか。

A　機械化交渉の結果、二十四昇にスライシング（二段払い）を取つけ、いど三川のドル箱となつている。今のような職場闘争を育てていくなら、こんど本格的な機械化になつた場合、会社は大打撃をうける。そのため、いま弾圧して将来思うようになる職場にしようとしている。係長も今まで一名だつたのが三名にふえ、また「出炭減は恐ろしくない」と広言する係長もあり敵の攻撃がどんなものかこれでも判つてもらえると思う。

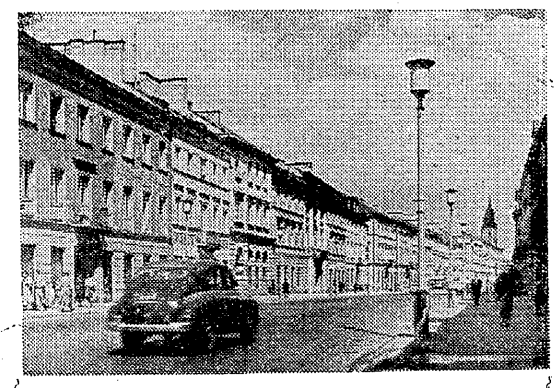
C　労働組合の中の職制を全部組合の中に向かんしているから、職場闘争が激しくなつていると思う。職制に対して一人ひとりが間違つた点はどんなことでも主張できるようになつた。他の単産はこういう人は何人おられるかということです。そこが違うと思う。

階級意識を悟るための努力

問　それはどこからきているのですか。こういう力はどこからきているのだろうかと思つています。

B　階級意識をさとるための努力がされたからと思う。そして組合は二十四時間勤務のように広はんいに地域、職場の情宣をしており、集会には皆が集つてくる。これを数多くやつており、それが労働者階級としてのエネルギーになつていると思う。なおこの他に、組織問題、分裂問題、さらには職制のご気嫌とりの問題など話し合つた。

このあと共同デスクでは、翌日各支部の現場を回り、取材をおこなつたが、帰山後は各組合の機関紙に、デスクで取材した記事を取上げて、共闘態勢づくりに努力することとなつた。



敢闘を祈ります

デンマークから便り

さきに西独、ワルソーからの便りにひきつづいて、こんどは阿部竹松参議（前炭労委員長）から組合本部につぎのような便りが寄せられた。

アメリカよりイギリスにきて、ポーランドのワルシャワの会議を終えて、モスコーからいまデンマークに出てきました。これからドイツに行き、炭鉱に働く同志と会見して一路帰国の途につきます。皆さまお変りもなく敢闘されておられることと存じますが、各地の日本大使館でおくれた日本の新聞に企業整備のことが出ており、心配しながら長い旅をつづけております。

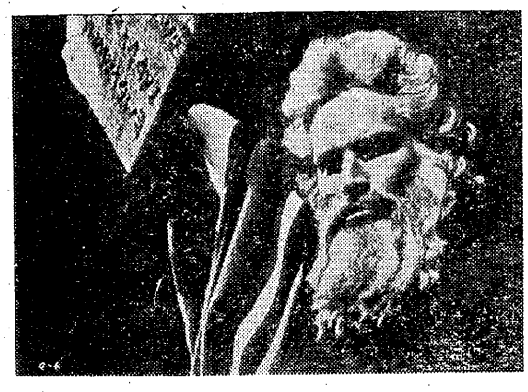
映画

三千年前を再現した映画史上最大の作品

「十戒」

ヨセフが死んだ後、ヨセフを知らぬ新しい王がエジプトに起つた新しいファラオは、イスラエルの人々に苛酷な労働をして苦しめた。しかし、エジプト人が苦しめれば苦しめる程、イスラエルの人々はますますふえていつた。ラメシスはゲセンの奴れいたちを自由にする解放者が生れるという噂を聞き、新しく生れるヘブライの男の子をことごとく殺させることにした。その残酷な布告はゲセンに恐怖と剣とをもたらした。そして新しく生れた赤児が見つけられるたびに母親の泣き叫ぶ声がその運命を告げた。しかし、ヨシャベルと呼ぶ母親は娘ミリアムの予言を信じて新しく生れた男の子をゆりかごに隠してナイルの大河に流した。子供のないビシアはその赤児を拾い侍女に他言せぬことを誓わせ、自分の子供として育てようと決心して〝水からひき出した〟ゆえにモーゼと名づけた。モーゼはセティのゆきとどいた指導によつてあらゆるエジプトの学問を教えられ、ことばにも行いにもすぐれた人物になつた。

宮廷の人々がモーゼが後つぎにきめられる式を見ようと集つたとき、ラメシスはエジプト人バーカを殺して奴れいを自由にしようとしている解放者を見つけたと叫んだ。驚いている人々の前に引き出されたのは、くさりにつながれたモーゼだつた。セティは驚いて、心にもないことを言わせようとしたが、モーゼはただ、自分は解放者ではないができれば同胞を自由にしたいと言つただけだつた。セティは心ならずもモーゼをラメシスに引きわたすほかはなかつた……



【写真はその一場面】

（十月三日よりセントラルで上映）

闘争分所で監視

大砂では社宅入口に

宮浦支部大砂地域分会入口には、〝去るも地獄残るも地獄〟の横断幕がはられ、その下に地域闘争分所ができて、警戒にあたつている急ごしらえの闘争分所には、常時五名がつめかけている。大砂では、闘争の際はいつも集会所が闘争本部になることになつている。この集会所が社宅の中にあるため、こんどのような闘争には会社の切り崩し、揺たきなどを十分監視するのに困難なため、一番便利のよい、社宅入口に設けたものである。

（上）警戒も厳しい闘争分所（大砂）

（下）物々しいこの構え（万田）

監視は四交替に分かれ、一回が午前八時から十二時まで、二回午後四時半、三回六時三十分、四回午後十時までとなつている。各方には役員一名、班長一名と分会員二名の計五名である。

監視にあたつている地域役員はここで、常時監視しているわけですが、いままでの所はまだ大した動きもありません。だがこれから闘争が激しくなるにつれて、会社の動きも活発になると思われるので、十分注意しなければならないでしよう。

ここは社宅に入るには舗装道路の一本道である。

頭上に横断幕が張られ、闘争分所には赤旗がはためいており、外部から社宅に入つてくると、闘争中だという意識が強く心をうち、たるんだ気など無くなつてしまう。いよいよ闘争も本格的な段階に突入したいま、各地域とも警戒にあたつている。

有刺鉄線張る

万田でロ・ア準備か

万田竪坑にはさいきん正門から塀にいたるまで、厳重な有刺鉄線が張りめぐらされて、ものものしい姿を見せている。

闘争も重大な段階に突入した折も折だし、現場ではすでに会社はロック・アウトに備えて着々準備していると抗議をおこなつている。会社の手によると、さいきん金属ドロ棒が入り、被害をうけたので盗難予防のため張つたのだと答えている。

盗難に会つたのは事実だし、現場に判事、検事ら七名が来て調査もすでに行つているが、盗難にかこつけたロック・アウト準備の臭がくさく、現場ではこのため抗議をおこなつているのである。

さきのロック・アウト強制就労にこりた会社側は、こんどに備えてどんな工作をとるかも知れないし各職場とも十分注意しなければならないだろう。

うたごえ交流会

三川・四山で既に二回目

〝九州のうたごえ〟を目前にした二十二日、三川集会所で四山、三川の合唱サークルによる〝うたごえ交流会〟が午後六時からひらかれた。

この交流会に、宮浦合唱団、水曜コーラスの仲間もこころよく参加して、総勢八十名余の盛大な交流会となつた。会場は、三鉱労組のマークも鮮やかな組合旗が「歓迎うたごえ交流会」とともに、正面に飾つてある。まず、「若者よ」「炭塵る仲間」の全員合唱にはじまつて、合唱団紹介、つぎに各サークルそれぞれお得意のコーラスを発表することにして、四山、宮浦、水曜コーラス、グリーン・ハーモニイ、三川と日ごろの練習を発表、コーラスの発表が終つて、それぞれの練習状況報告や交流座談会となつた。各サークルとも、方法は異なるが、サークルの発展とうたごえをひろめるために努力をしていることが感じられて頼もしかつた。座談会は抽象的テーマを避け、交流会に参加して感じた事から、それについての意見を話し合うことにした。主な結論をまとめると――

○各サークルは少くとも昨年の交流会よりも技術的に向上した。

○サークルで最も大切なことは人間関係をつくることだから、皆で気持良いものにするため、努力する。

○ヤマの合唱団のあり方は、あくまでも組織の中のサークルということを認識して、組織の前進のために動くことである。

最後はふたたび全員合唱。各サークルから指揮することにして、カチューシヤ・赤とんぼ・手・トロイカ・幸せの歌を合唱し、終りに各サークルの発展をねがつた全員拍手で、意義深かつた第二回交流会を終了した。

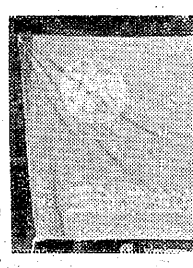
こんども折にふれて交流会をもつ予定だが、二、三の合唱団だけでなく、もつと多くの合唱団が、こんどのように、和気あいあいとした交流会をもてたらもつと素晴らしいことだろう。

終りに、各ヤマの合唱団の発展を祈つてペンを置く……。

（三川・E・Y）

組合旗を寄贈

けい肺退職の西山さん

四山支部西山勝さんは、炭鉱病といわれるけい肺にやられ、寝たきり中であつたが、去る三月十四日に退職された。

長男の即時入替採用もでき、いま静かに病魔と闘つておられるが、三井の企業整備に、いま職場、地域では激しい雰囲気をみせているとき、在職中お世話になつた御礼と組合の激励をかねて、九月二十四日組合本部に〝組合旗〟を寄贈され、本部一同を感激させている。こんど闘争が激化するなかで、この組合旗は西山さんの思いを大いに発揮することであろう。